

～ 医療法人わかば会のケア情報誌 ～

わかば倶楽部

- ✓ 認知症を理解する
- ✓ 中里皆瀬地区公民館祭り
- ✓ わかばテラス合同誕生会
- ✓ わかば保育園卒園式

Vo.61
4月号

April
2016

編集・発行／医療法人わかば会
〒857-0016 佐世保市俵町 22-1
Tel 0956-22-6548 Fax 0956-24-7270
<http://www.wakabakai.or.jp>



わかばテラスに咲く ももの花

● 桜も多くの種類がありますが、桜全般の花言葉は「精神の美」「優美な女性」です。西洋で言われる桜の花言葉の「精神の美」の由来には、アメリカの初代大統領のジョージ・ワシントンの子供のころの逸話があります。ワシントンが子供の時、父が大切にしていた桜の木を誤って切ってしまいました。それを正直に告白したところ、その正直さがかえって褒められた、というお話です。ワシントンが子供のころにはアメリカ大陸に桜の木はなかったとされていることから、子どもたちの教訓のための作り話という説もあります。

里山レシピのご紹介

「桜あんみつ」

1人前 47 Kcal



桜は目で楽しむだけでなく、香りを楽しむためにも使われます。桜の香り成分、クマリンには不安や悲しい気持ちをやわらげ、幸せな気分にしてくれる作用があります。スイーツの材料として葉や花の塩漬けを使えば、香りとともに見た目も春らしく華やかな雰囲気になります。

材料 4人分 (10cm×10cmの耐熱容器 2個分)

- 桜の花の塩漬け・・・4個
- 水・・・1カップ
- 粉寒天・・・小さじ 1/2
- 砂糖・・・大さじ 2
- 白あん・・・大さじ 3
- (飾り/桜の花の塩漬け)・・・4個

シロップ

- 湯・・・1/2 カップ
- はちみつ・・・大さじ 1 と 1/2
- レモン汁・・・数滴



作り方

- ① 桜の花の塩漬けは、ぬるめの湯に1～2分浸して塩抜きし、花と茎に分けてみじん切りにする。飾り用の桜の塩漬けも同様に塩を抜き、ペーパーで水気を取っておく。
- ② 鍋に水、粉寒天、砂糖を入れて中火にかけ、沸騰して溶けたらバットなどの耐熱容器に流し入れ(1cmくらいの厚みになる)、①で刻んだ花をまんべんなく散らして、冷蔵庫で冷やし固める。
- ③ ボウルに白あんと①で刻んだ茎を入れ、桜の香りがよく出るようにへらですり潰すように混ぜ合わせる。
- ④ シロップを作る。ボウルにシロップの材料をすべて入れ、よく混ぜ合わせる(レモン汁を入れ過ぎると桜の香りを消してしまうので注意)
- ⑤ ②の桜寒天を1cm角に切って器に盛り、④のシロップをかける。
③の桜あんを添え、戻した飾りの桜の花をあしらう。

医療法人わかば会

● 俵町浜野病院 (Tel 0956-22-6548)

【医療】内科・外科・循環器科・呼吸器科・消化器科・整形外科
肛門科・リハビリテーション科
病室 (一般病棟 26床・療養病棟 38床)

【介護】居宅介護支援事業所・ヘルパーステーション
デイケアセンター・グループホーム・訪問看護ステーション

● 有料老人ホームわかばテラス (Tel 0956-76-8780)

【介護】デイサービス風祭り・デイサービス里山療法クラブ

● サービス付高齢者向け住宅わかばレジデンス (Tel 0956-22-6544)

● 小規模多機能ホームわかばハウス (Tel 0956-22-6535)

【介護】小規模多機能ホームわかばハウス

わかば会の理念

wakaba-gokoro
わかばごころ

和

和をもって、一人ひとりの施設づくり

環

環になって、患者さまとの健康づくり

話

話によって、みんなで育む関係づくり

中里皆瀬地区公民館祭りに出店



祭

わかばテラスの入居者様と一緒に作った手作り味噌や饅頭、手工芸品を、3月13日(日)に開催された中里皆瀬地区公民館祭りに出店しました。当日は朝長市長をはじめ、浜野理事長夫妻やたくさんの方々にご来店いただき大盛況でした。

わかばテラス合同誕生会の様子 (2・3・4月生)



3月27日(日)、わかばテラス入居者様のうち、2・3・4月生まれの9名を対象に合同誕生会を開催しました。

わかば保育園卒園式



3月29日(水)、病院内保育所「わかば保育園」の卒園式を行いました。今年度は3名が卒園となり、浜野理事長より卒園証書が授与されました。卒園生は4月から新しい保育園や幼稚園に通い、たくさんのお友達を作ることでしょう。

平成28年4月より、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の人員配置を手厚くし、リハビリ機能の強化をはかります。医療、介護現場で必要とされるリハビリの提供に尽力してまいります。

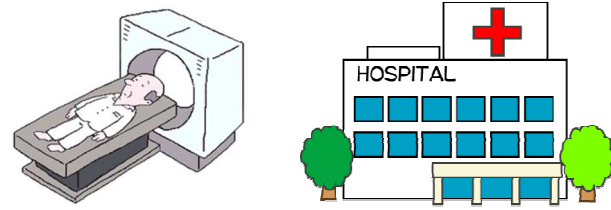


認知症を理解する ~認知症の診断・治療~

早期診断、早期治療が大事なわけ
 認知症はどうせ治らない病気だから医療機関に行っても仕方ないという人がいますが、これは誤った考えです。認知症についても早期受診、早期診断、早期治療は非常に重要です。

治る病気や一時的な症状の場合がある
 正常圧水頭症とか、脳腫瘍、慢性硬膜下血腫などの場合、脳外科的な処置で劇的に良くなる場合もあります。それを診断するためにCT検査は必ず必要となります。甲状腺ホルモンの異常の場合は、内科的な治療で良くなります。薬の不適切な使用が原因で認知症のような症状がでた場合は、薬をやめるか調整すれば回復します。ところが、こうした状態のまま長期放置すると、脳の細胞が死んだり、恒久的な機能不全に陥って回復が不可能になります。一日も早く受診することが重要です。

早い時期に受診することのメリット
 アルツハイマー病では、薬で進行を遅らせることができ、早く使い始めるとより良い状態を長くすることができます。病気が理解できる時点で受診し、少しずつ理解を深めていけば生活上の障害を軽減でき、その後のトラブルを減らすことも可能です。障害の軽いうちに障害が重くなったときの後見人を自分で決めておく(任意後見制度)等の準備や手配をしておけば、認知症であっても自分らしい生き方を全うすることが可能です。



受診の内容
 CT 場合によってはMRIや脳血流検査などの画像検査、記憶・知能などに関する心理検査に加え、認知症のような症状を引き起こす身体の病気がないことを確認する検査を行います。認知症と診断され早期に治療を開始すると、病状の進行を緩やかにすることができます。しかし治療せずにおくと認知症によって脳の障害がどんどん進行し、精神機能の障害だけでなく身体機能の低下が起これば、数年から十数年の経過で歩行ができなくなり、寝たきりになります。最終的には口から食べ物をのみ込むことができなくなり、肺炎を繰り返すようになって亡くなります。

軽症のうちから 専門家との信頼関係を築く
 認知症が進行して寝たきりになる頃には、自分で介護や医療上の決定ができなくなり、現在は、現在の日本では、だれかにインフォームドコンセントの権限を委任するという法的制度がありません。法定後見人にも医療上の代諾権はないとされています。早期に診断を受けても、できるだけ自分の力で生きていきたいと思う人、あるいは、頼るべき人もなく、自分で生きて行かざるを得ない人も少なくありません。そういうときは、日常生活自立支援事業や新しい成年後見制度 補助や任意後見を活用しましょう。



かかりつけ医や相談に乗ってもらうケアマネジャーを持ち、これらの制度を十分利用すればかなり進行するまで自分の意思に沿った生活をする事ができます。終末医療や介護の方針については、信頼できるだれかに任せなければならぬ自分の回りにいる人たちと十分コミュニケーションを保ち、自分の生き方や考え方を理解してもらいましょう。

●家族へのアドバイス●
 認知症と診断されても、あわてて騒がないことが第一です。「歩下がりて観察し、自分の言葉で表現するようにしましょう。徘徊」とか「幻覚」「妄想」といった専門用語を使わず、普通のことばで、いつでも、何が起ったかを記録します。認知症に詳しい専門家と相談する時、日常語で具体的に書かれた記述のほうが情報量が多くなるので、対応策も考えやすくなります。そこから先の対応は時と場所と人によってさまざまです。対応の目標は本人と家族の穏やかで心地よい生活です。症状は消えたけれど、動けなくなったのはなんにもありません。症状や状況によっては向精神薬と呼ばれる薬が必要になることがあります。薬は誤った使い方をすると百害あって一利なしですが、使うべき時に躊躇すると、病状はどんどん悪化してしまいます。専門家の意見を聞くべき時には謙虚に聞きましょう。医師は認知症を少しでも良くしようと思っています。